

# 作業補足シート

8 : 2 8

分野	配線施工	作業名	シースケーブルの端末処理
目的	接続箱の前処理である幹線側シースケーブルの端末処理を行う。		
工程	ポイント	時間 (再生位置)	
1. シース剥ぎ取り位置をマーキング	ケーブルのシースを剥ぎ取る位置に印をつける。 ケーブル端（接続箱のケーブル引止め部）から 1.6m（十分な余長分）の位置に白ペンなどでマーキングする。	0 : 2 1	
2. シースの除去	<ul style="list-style-type: none"><li>ケーブルストリッパを使用し、マーキングした位置に切れ込みを入れる。</li><li>切れ込みを入れた位置を軽く揉みながらシース引き抜く。極端にケーブルを曲げると心線を損傷する恐れがあるため注意する。</li><li>内部にシースを除去するための引き裂き紐がある場合は、ケーブル端部から紐を 50mm 程度取り出す。取り出した紐をラジオペンチなどに巻き付け、マーカ一部に向かって折り返すように引き上げることでケーブルを切り裂くことができ、シースを簡単に除去できる。</li></ul>	〃	
3. PVC テープによる保護	<ul style="list-style-type: none"><li>ボンド線を取り付ける際にファイバに傷つくのを避けるため、PVC テープをシース剥ぎ取り際に 2 周巻きつける。</li><li>PVC テープを切るときはニッパー等で切れ込みを入れて除去する。</li></ul>	0 : 3 6	
4. 切り取り位置をマーキング	<ul style="list-style-type: none"><li>ボンド線取り付け位置に印をつけるため、シース剥ぎ取り際から横に約 1 cm、縦（円周上）に約 1.5 cm、L 字状にマーキングする。</li></ul>	1 : 1 0	
5. シースへの切り込み（ボンド線取り付け用）	<ul style="list-style-type: none"><li>横方向にシースに対して切り込みを入れるため、ケーブルを床に置いた状態で軽く足でケーブルを抑え、LAP シースカッタを木づちで叩きながら切れ込み（約 1 cm）を入れる。</li><li>LAP シースカッタを使用する場合、シースとケーブルの隙間に向けて少し斜めから入れて木づちで打ち込む。</li><li>横方向の切り込みに続けて、ケーブルストリッパで縦方向（円周上：約 1.5 cm）に切り込みを入れる。</li><li>ボンド線が取り付けやすいように、切り込みを入れたシースを内部のアルミシールドが切れないようにラジオペンチで軽く立ち上げる。</li></ul>	1 : 5 2  2 : 4 9	

6. ボンド線の取り付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボンド線とシールド部分をしっかりと接触させた状態で挟み、ラジオペンチ等で圧着する。</li> <li>・ ボンド線の圧着部で PVC テープを約 3 周巻きつけ保護する。</li> </ul>	3 : 4 2
7. 保護テープの除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケーブル内部の保護テープ（ファイバ押さえ巻き）をシース剥ぎ取り際まで除去する。</li> <li>・ 全ての保護テープ除去後、ファイバをケーブルに PVC テープなどで軽くまとめておくとの後の作業がしやすくなる。</li> </ul>	5 : 0 7
8. 余分なスロットのカット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シース剥ぎ取り際から 7 cm の位置にマーキングをし、ボルトクリッパーなどでケーブルを切断する。</li> </ul>	5 : 3 3
9. テンションメンバを露出させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続箱にケーブルを固定するためにケーブル内部のテンションメンバを露出させる。</li> <li>・ シース端から 3 cm の位置にマーキングをする。</li> <li>・ ニッパーやカッターナイフでスロットを除去する。</li> <li>・ スロットを綺麗に取り除かないと、ケーブルを固定したときに強度が弱くなる可能性がある。</li> </ul>	6 : 2 4  7 : 5 1
使用器具	ケーブルカッタ、ケーブルストリッパ、LAP シースカッタ、木づち、コンベックス、ニッパー、ペンチ、カッターナイフ、はさみ	
使用材料	スロット型ファイバケーブル（3.5m 以上）、ボンド線	
最終更新日	2022/02/15	